

令和5年度 自己評価書

学校名	北海道伊達開来高等学校
-----	-------------

1 本年度の重点目標

(1) 探究的な学習活動の実践 (2) 安全に安心して活動できる教育環境の整備 (3) 地域の期待に応える社会に開かれた教育活動の展開

2 自己評価結果

		評価項目・指標等		達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目				
教育課程・学習指導	教育課程等の状況	教科シラバスについて教員全体で理解され学習方法・評価等について適正な実施に努めている。		B	B	・観点別評価について改めて研修の機会を設け改善を図る。 ・教科横断的な指導を進めるために、シラバスを有効的に活用する。 ・教科選択における選択の意図を共有する機会を設ける。
		学力向上に向け、授業アンケートを実施し積極的に授業改善に取り組んでいる。		B	B	
		「生徒がわかる授業」を行うための指導方法を工夫している		A	A	
	各教科等の授業の状況	家庭学習の習慣化に努めている。		B	B	・生徒が主体的に考え活動するような授業を図るため、教科会議や研修を推進する。
正解のない課題に対し情報を集め、整理したり、話し合いをするなどして、自らの考えを深める活動をしている。		B	A			
生徒指導	生徒指導の状況	挨拶・身だしなみ等、基本的な生活習慣確立のための指導がされている。		B	B	・生徒指導ガイドラインを活用し、指導の規準を確認する。 ・積極的、予防的な生徒指導を図る。
		生徒指導に関して、教職員の共通理解・実践が図られており、情報が共有されている。		B	B	
	教育相談の状況	生徒の抱える悩みや問題の早期発見及び問題が発生した場合の対応が適切に行われている。		B	B	・長期欠席の生徒に対する対応について、組織的な対応が出来るよう整備する。 ・いじめ防止等対策委員会を活用し、いじめや不登校の未然防止に組織的に取り組む。
		生徒と共感的な人間関係が構築されている。		A	B	
		生徒指導に関して、保護者・地域・関係機関と連携し、効果的な生徒指導が行われている。		B	B	
	健康・安全の状況	交通安全等、事故の未然防止指導が十分なされている。		A	B	・交通安全、健康、安全に関わる講話をさらに充実していく。 ・積極的、予防的な生徒指導を図る。 ・1日防災学校を生徒主体の活動として実施し、防災意識の向上に努める。
		健康・安全・性に関する指導(講話・体験学習等)が積極的に行われている。		A	A	
生徒の安心・安全を担保できる教育環境づくりに努めている。		A	A			
進路指導	キャリア教育推進の状況	生徒の進路意識を啓発し、将来の展望を明確にするためのキャリア教育の充実を図っている。		B	A	・進路に関する講話やガイダンスについて、時期や内容の見直しを図る。 ・外部機関を利用した進路指導を精選し、内容の充実を推進する。
		生徒の進路実現に向けた科目選択や講習等の充実を図っている。		A	B	
	保護者との連携状況	保護者との連携を十分に図った進路指導の推進している。		A	B	
特別活動	行事・部活動の状況	学校行事や生徒会活動の活性化に努め、生徒の主体的な参加を促進するとともに、生徒の豊かな人間性が育成されている。		B	A	・熱中症対策を施した上で、学校祭、体育祭を実施し、今年度の取組を元にさらに充実させる。 ・部活動加入率が減少傾向のため、加入期間の延長など工夫をすす。 ・部活動外部指導員の拡充に努める。
		部活動と学習の両立が図られるよう指導されている。		B	A	
	行事の精選	学校行事や部活動の精選、工夫、改善に努めている。		B	B	
組織運営	地域連携の状況	保護者や地域への積極的な情報提供(通信・HP)に努め、積極的に意見や要望を学校運営に反映している。		B	B	・HPなどでの広報をより頻繁に行うことで教育活動を広く理解してもらえよう努める。 ・探究活動やボランティア活動の充実を図り、地域関係機関と連携した活動を増やす。
		地域関係機関との連携による、諸活動(ボランティア等)に積極的に参加できる環境づくりに努めている。		B	B	
		PTAや同窓会、地域の関係機関との連携・協力が図られ、開かれた学校づくりが推進されている。		B	B	
	協働意識と課題の共有	目標達成状況や学校運営改善のための課題の共有を図っている。		B	B	・業務分担に偏りがあったため、校務分掌を再編成し、業務の標準化を図る。 ・他学年や分掌との連携を進め、課題解決のために必要な方策を共有する。 ・法令遵守における校内研修を充実させる。
		職員の協働体制のもと、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるべく教育活動を展開している。		B	B	
		勤務時間を意識した働き方を推進することができている。		B	B	
		学年団の連携・協力体制はもちろん、他学年・分掌との連携が十分に図られている。		B	B	
教室や職員室など、生徒の模範となるよう日常から整理整頓に努めている。		B	B			
コンプライアンスに基づき、望ましい人間関係が構築され、活力ある職場となっている		B	B			

令和5年度 自己評価書

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- 観点別評価及び単元別テストについて研修を進め、学力向上につながるよう改善を図る必要がある。
- 地域との連携を進め、教科横断的に活用する必要がある。
- 校則等について、全教員が統一した指導を行う必要がある。
- 長期欠席生徒の増加傾向にあるため、教育相談体制を構築する必要がある。
- 生徒が主体的に考え活動する授業改善を推進する。
- コミュニティスクールの設置により、地域や保護者との連携を深め、地域の声を教育活動の中で活かす。
- 創造的教育方法実践プログラムにより、大学や専門学校等との連携を進め、遠隔授業を効果的に活用する。
- 生徒指導ガイドラインを活用し、指導の基準を確認する。
- 年次や分掌の連携を深め、組織として対応する。
- 代ゼミサテラインと教員の対面講習を組み合わせ効果的に講習を行う。